

子ども会（学習会）だより

MY SKY No.14



1997年8月1日金曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

みなさん、暑いですがご機嫌いかがでしょうか？暑いからといって、冷たいものの飲みすぎやクーラーのかけすぎには十分気をつけてくださいね。人間やはり、できるだけ自然に過ごし、汗をかいた方が良いでしょう。

ところで久しぶりではありますが、ちょっと紙面を使い、最近の私自身のことについて書いてみようと思います。読んで、いろんなことを考え、できれば、いろんな形でアドバイスをいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



☆ 名づけにまつわるエトセトラ……???

1997年7月15日午前5時13分、私たちの子どもが、この世に産まれて初めての産声をあげた。そのとき、一瞬であるにもかかわらず、たくさん思いが私の頭を駆け巡った。一言では言いきれないほどの思いである。そして、「やっと産まれてくれたか！」とも思った……。

実は私と彼女（結婚相手）は、子どもが産まれる前から、女の子が産まれたら「彩夏」にしよう決めていた。イメージだけで決めていたのであるが、それだけで十分だと思っていた。産まれた日も7月15日と夏の真ん中だったので、「これはピッタシ」と、その思いはなおさらのつっていった。産まれてからしばらくして、私たちはもうその名前でも呼んでもいた。産まれて三日目に私の両親に尋ねられたときも、私は「彩夏」と答えた。まだそのときは、親たちも「ほおー」という調子で快く聞いていた。そのときまでは……。

ところが、ある日を境に親たちに反対されだした。理由は、

「名前に季節（春夏秋冬）が入るのはあまり良くない」

ということだった。どうして季節を入れてはいけないのか、私には納得がいかなかった。すると親たちは、いろんな理由を挙げてきた。

- ① 季節を名前に入れることは、昔から嫌われている。
- ② 名前に季節が入っている人で、子どもができない人がいる。
- ③ 名前に季節が入っている人で、結婚できてない人もいる。

④ 小人病こびとびょうになって、いまだに背が140cmぐらいの人もある。

しかし、それでも科学的根拠かがくてきこんきよのなさを指摘してきすると、「昔からつけんのんじゃ」と一蹴いっしゅうされてしまった。他にも、姓名判断せいめいはんだんや画数かくすうを引き合いに出してきて、あくまでも自らの正当性せいとうせいを主張してきた。親戚しんせきの中には、「子どもの幸せにつながることやけん、ケンカしてでも話し合っとかないかん」という人まで出てきた。私たちの子どもの幸せまで考えてくれること自体は、大変有り難く思うが、もっと別の形で幸せを願ってくれればとも思った。また、こんな話もしてくれた。

「昔の人の言うことは聞いとかないかん。画数とか姓名判断は関係あるんよ。それに、実際に不幸ふこうになつとる人が確率的かくりつに多いんじゃって」

別に昔の先人せんじんの言うことをすべて聞かないというわけではない。科学的に正しく、実際に私たちの生活やくだに役立っていることなんか、数え切れなくらいある。ただ今回の場合、科学的に実証じっしょうもされていないし、統計的とうけいてきにもはっきりしていないので、私はどうしても合点がてんがいかないのだ。

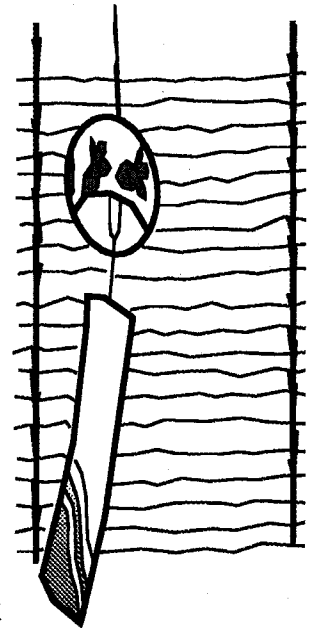
それに意地悪いじわるな私は「漢字を使わない外国でも、人間の成長に画数とか姓名判断の影響はあるんだろうか」なんて思ってしまうのだ。漢字を使う国に生まれた人にだけ、日本に生まれた人にだけ画数や姓名判断の影響があるなんて、どう考えてもおかしい。

「彩夏あやか」という名前は、私たちが本の中から見つけてきた。他の漢字の「あやか」もたくさんあったが、「夏」という字が入ってるからという理由で、互いに「いいなっ」と二人一致いっちし、これに決めていた。それだけではいけないのだろうか……？

私は、部落差別じゅうたいの実態から部落問題を学習する中で、科学的根拠のない考えが偏見へんけんを生みだし、それがひいては差別意識と結びついてしまうことを学べた。無知が差別を生んでいくということむちを学んだのである。そして今まさに、生活の中にある小さな小さなことが、差別意識と結びつこうとしているのである。

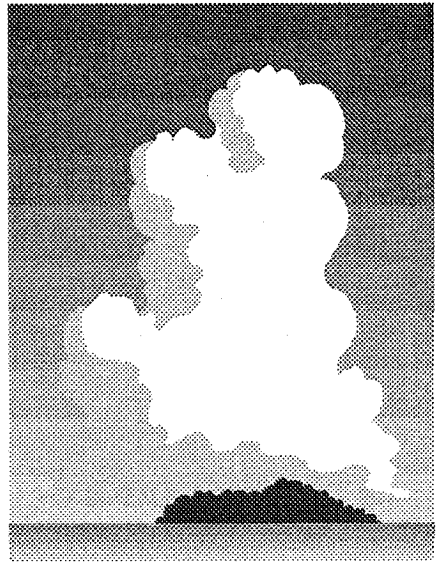
しかし、彼女は後でこうも告げた。

「うちの家の母は何も言わないと思う。お祖母ちゃんも年寄りやけど何も言わないと思う。けど、「彩夏」に決めて、後々何かある度に言われるのだったら、私はいいけど、この子が可哀想かわいそう。そんな辛い思いをさせてまでこの名前にしたくはない。それに、そんなことが何度もあったら私もイヤな気持ちになるし……とに



かく、もめたくはない……」しんみりと悩んでいた。
また、「私はどっちでもいいから……」と^{きづか}気遣う彼女が
いじらしかった。母親としての^{ほんお}本音だと思う。確かに
その通りだと思う。

私が彼女を好きになったのは、変にこだわりのない
ところだったともいえる。^{いんしゅう}因習や^{なら}慣わしに^{しば}縛られな
いところが好きになった理由の一つでもある。でも、
こだわりのないということは、逆に言えば、どちらに
でも^{ころ}転ぶということにつながり、こわい^{ようそ}要素も^{よく}含んで
いる。しかし、母親の^{しんじょう}心情として「^せ背に^{はら}腹は^か代えられ
ない」というのが本音なのだと思う。



こう書くと、いっこうに自らの考えを^{あらた}改めようとしなない親たちの方が、まるで鬼のよう
に思えるかもしれないが、決してそれだけを言いたいわけではない。当然であるが、優し
い部分もあるし、私自身、^{むじょう}「無償の愛」を感じ、親のありがたさをつくづく感じ入ったこと
もあった。

ところが私の^{せいちょう}成長と共に、人間としての^{ほんのう}本能である「^{よく}欲」が出てきたことも確かだと思う。
学生時代の成績、大学受験、就職、^{しゅっせ}出世への道、結婚、そして孫に対してまでも……。
「みんなお前のため、お前のことを思って……」と言うが、私にすれば「ワイのためと言うな
ら、もっとワイを自立させろよ！」と思ってしまうのである。^{おやふこう}親不孝と言われるかもしれな
いが、そう思うのである。本当に子どものことを思うのであれば、もっと自立心^{じりっしん}を育
てるべきではないかと思うのである。できることなら、私が^{おきな}幼かったときのように、人
としての生き方を^{じゆんすい}純粹に説き、私の考えを常によく聞き入れ^{そんちよう}尊重してくれた頃のようになっ
てくれればと願わずにはいられない。

私は、学級担任を持っていたときこんなことを子どもたちから学んだ。

「子どもも^{けっこう}結構バカにできない。やろうと思えば、いろんなことができるじゃないか」
つつい手を差し出したくなるのだが、最後まで^{こら}堪えて見守ることの大切さを、子どもた
ちから学んだ。ときには間違えることもある。それはそれで仕方ない。ただし、^{しか}叱られる。
でも、ときに大成功をおさめることもある。自分の力でできたときの^{よろこ}喜びは、^{なにもの}何物にも
^か代え難い人生の^{ざいさん}財産となる。それを繰り返しながら、できること、できないこと、正しい
こと、間違ってることを実体験の中で学べるのだと思う。

私は学生時代のある時から、「自分以外みな我が師」と考えるようにしている。「でも、親のイヤな面から何をどう学べというのか？」と悩んだことも事実である。そのとき出した結論は、「自分にとっての悪い手本として、その真似をしないように大人になろう」ということであった。マイナスをプラスに変えていくよう心がけるようにしたのである。では今回の場合も、すべてプラスに代えられるのかと言われれば、今回はちょっと自信がない。何故かといえば、親の価値観が私たちに押しつけられているからである。押しつけがなければすべてプラスに代えられるのだが、価値観を強制される以上、すべてをプラスにはできない。

少し前にSMAPが「セロリ」という曲を歌っていたが、あの感じが私は好きである。歌詞をよく聴いてなかった方は、改めてよく聴いてみてほしい。基本的に、結婚にしても、名づけにしても、それぞれ当人が気に入ったようにすればいいと思う。当然周囲の者がアドバイスをすることはあっていい。しかし、それを当人に強制することはできないのだと思う。それぞれに価値観が違うのだから、歩み寄る努力はしても、最後はそれぞれの価値観を認め合ってそれぞれの人生を歩めばいいのではないだろうか。

ただ、偉そうに言って私自身が、理想と現実の狭間にいることも事実である。どういうことかと言えば、人と出会ったとき、特に毎朝学校で子どもたちの顔を見たときに、心から「おはよう」が言えないのである。いったん頭で「ああ、この子がいて良かった。かけがえないこの子の命を大切に思う家族がいて・・・」といちいち考えないと、心から「おはよう」が言えないのである。本当に「自分以外みな我が師」が身につけているのなら、頭で考えるよりも、心で感じて「おはよう」が言えるはずである。「娘の遺してくれたもの」を書かれた田中 蔚さんが、「感性に問う人権啓発」という本の中でこんな詩を載せている。

日々出合う なんでもない 当たりまえの人を

ひそかに拝めるような そんな私になりたい

結局子どもの名前は、彼女がいくつか出した候補の中から、私の両親が「恵里奈」という漢字をつけた。この名前自体は好きである。彼女が考えた名前だし、「里」は丸岡忠雄さんの詩「ふるさと」を思い出させる。「奈」は水平社発祥の地である奈良の「奈」だ。私たちが入籍した水平社創立記念日の3月3日にもふさわしい。だから大好きだ。今回は、私自身「どうして両親が自分の子どもの名前をつけれないんだ」という、釈然としないままの気持ちだったので名づけには参加できなかったが、たとえどんな名前になったとしても、我が子に変わりはないし、どんなに育っていったとしても、一人立ちするまで私たち二人は我

が子を守り続ける。そして次の子どもが授かるかどうかはわからないが、それまでには、互いの価値観が尊重できるような関係を、這いつくばりながらも、時間をかけて親族一同で築いていきたい。そしてそのときは、みんなに祝福されながら、私たち二人で名づけをしてみようと思う。

最後に……もし将来、我が子恵里奈が「私の名前の由来は？」と尋ねてきたら、私は、このMY SKYをスッと差し出し、いろんなことを話してみようと思う。



さて、いよいよ夏休みも残り一ヶ月となりました。宿題の出来具合はどうでしょうか？後で困ることのないように、少しでも早くやり終えておきましょうね。そして、仕方なくやる勉強じゃなく、自分から課題を見つけて取り組む勉強にトライしてみませんか？そもそも長い休みには、そういう意味も含まれています。課題は何でも結構！自分の趣味や好きなことを、とことん極めてみましょう！

そしてできるだけ多くのみなさんに、この夏、差別問題について一つでも勉強してもらえればと思うんです。ビデオからでも結構、本からでも結構、新聞からでも、何からでも差別問題は考えられると思うんです。いかがなものでしょうか？

また、学習会に参加しているみなさんは、下にあるように、これから次々と行事が始まりますので、忘れずに参加し、この夏、何か確かなものを身につけてみましょう！自分から動いてみることで、きっと新しい何かを得られるはずです！がんばりましょう！

まだ参加希望できるので、「よっしゃ！いっちょ行ってみようか！」と思う人は、是非声をかけてください。



- 8月7日(木) 第2回徳島県部落解放学習会中学生集会「WITH~ともに燃やそう解放の炎!~」(徳島県青少年センター;10:00)
- 9日(土)・10日(日) 板中学習会県内一泊研修会(土柱自然休養村センター)
- 18日(月)・19日(火) 徳島県解放子ども会一泊研修(牟岐少年自然の家)
- 28日(木)・29日(金) 板中学習会県外視察・交流会(大阪人権博物館・羽曳野中学校)